

越教組ニュース

越谷市教職員組合
ホームページ



今年度になり、にわかに計画が示された学園構想。市教委や行政関係者は、もう何年も前から相談、計画してきたことだと言うのでしょうか。はたして学校関係者の私たち教職員でさえ突然の感を否めません。ここでは、今出されている学園構想案を簡単に紹介するとともに、その大きな問題点を指摘しておきたいと思えます。

突然の発表

計画では、令和三年度には蒲生二小の敷地にプレハブ校舎を建て、四年度には蒲生小と蒲生二小を合併させることになっています。この計画をどれだけの市民が知っているのでしょうか。また、支持しているのでしょうか。

参加というのでしょうか。

市民の憲法とでもいえる「越谷市自治基本条例」では、市政を進めるにあたって、「市民の参加を基本」とすると謳っています。これでも市民

そもそも学園構想とは

そもそも学園構想とはどのような生まれか。形式的には「更なる小中一貫教育の推進」と言っています。が、「これほど中身を語っていない計画を見たことがない」(大学教授)というものです。実

際のところは、パンク寸前のレイクタウン地区の児童生徒を押し込める学校づくり、学区づくりに他なりません。全国的に進められている公共施設等総合管理計画では、公共施設を減らしていく動きになっているという事

情もあります。

現在3つの学園構想があります。それぞれに、少しずつ違いがあります。

①蒲生学園

現在の蒲生小と蒲生二小の敷地に両校を統合した小学校を作り、同じ敷地に中学校を渡り廊下で結びます。別棟になっていますが、形の上では小中一体型一貫校と言えます。蒲生南小はそのまま残り、進学は

大規模収容施設

こんな大規模収容施設は、ありえませんか。特にコロナ禍の下では。

■蒲生学園 小1536人
(うち蒲生南小546人)

■川柳学園 小1518人
中354人

■明正学園 小1016人
中416人

現在市内で最も大きい大規模小学校は、995名31学級(特支2)です。3学級の各小学校の児童数

(仮)蒲生中になりま

②川柳学園

現在の川柳小の校舎は、1〜4年生が通う(仮)川柳小・低となりです。5〜6年生は現在の南中の敷地に新校舎を作り、(仮)川柳小・高となりです。南中の校舎はそのまま残り、(仮)川柳中となります。

③明正学園

現在の明正小と光陽中はそのまま残ります。明正小の子どもは今と変わらず全員光陽中に進学します。現在蒲生小から光陽中に進学している子は、令和四年度の卒業生からは現南中に進学します。また、現在川柳小から光陽中に進学している子たちは、令和七年度の卒業生からは(仮)川柳中に進学します。

学校分離の川柳小

また(仮)川柳小学校は、1〜4年生と5・6年生は別校舎になります。歩いて5分くらいの距離ですが、授業時間での職員の行き来はあるのか。どちらかの校舎に校長が、もう一方に教頭が行くのか。子ども同士は行き来をするのか。一つの学校としての一体感

はできるのか。今まで小学校で培ってきた異年齢集団としての小学校文化が全く破壊されてしまうのではないかと心配です。5・6年生にリーダー性が育たないことは、広く指摘されています。さらに、(仮)川柳中と(仮)川柳小・高は、家庭、体育館やプールを共有する計画です。授業や行事での使用には、毎回両校の調整が必要になります。これで不都合はないのか。プールの深さはどうなるのか。心配が尽きません。

中一ギャップは根拠なし

そもそも小中一貫教育で何が変わったのでしょうか。確かに教員同士の交流は進みました。しかし、教育内容、実践にどれほどの効果があったのでしょうか。小中の一貫した指導が求められる、形ばかりそろえることになったのではないのでしょうか。ややもすれば、小1と中3に同じ指導をし

広く意見を聞いて

市教委作成のスケッチャーでは、八月下旬に情報公開とあります。本当に市民の声を聞く気があるのなら、早く情報を開示し、意見を広く集め、その中から一致点を見出していくしかないでしょう。市政、市教委に「越谷市自治基本条

